

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

空間移動の言語表現：  
実験的対照研究から分かること

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2021-06-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 松本, 曜 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00003366">https://doi.org/10.15084/00003366</a>

# 対照言語学の観点から見た日本語の音声と文法：動詞の意味構造

## 空間移動の言語表現：実験的対照研究から分かること

課題：移動事象を諸言語がどのように言語化するのか

### 1. 類型論的研究

● 経路表現位置 (Talmy 1991, Matsumoto 2018)

● 経路主要部表示型言語 (動詞枠付け言語)

スペイン語などは経路を主動詞で表現

*La botella salió de la cueva flotando.*  
the bottle moved.out from the cave floating

● 経路主要部外表示型言語 (付随要素枠付け言語)

英語などは経路を主動詞以外の要素で表現

*The bottle floated out of the cave.*

● 様態と直示性の言語化頻度 (Slobin 2006, Koga 2017)

どのくらいの頻度で様態や直示性に着目して言語化するか

### 2. NINJAL Project on Motion Event Descriptions across Languages (MEDAL)

● 統一的な発話実験によって20の言語を調査

● 諸言語の共通性と差異を明らかにし、その中で日本語がどのように位置づけられるかを考察

日本語 (古賀/吉成/松本) 日本手話 (今里) 英語 (秋田/眞野/松本)  
ドイツ語 (高橋亮介) フランス語 (守田) イタリア語 (吉成)  
スペイン語 (I-アンチュニャーノ) ロシア語 (ボルジロフスカヤ)  
ハンガリー語 (江口) モンゴル語 (バドマ) 中国語 (小嶋、夏)  
ネパール語 (松瀬) タイ語 (高橋清子) タガログ語 (長屋)  
イロカノ語 (山本) クプサピニ語 (河内) シンダーマ語 (河内)  
スワヒリ語 (カフンブル) ユビック (田村) バスク語 (石塚)

### 3. 実験A

● 諸言語における移動の様態、経路、直示性の表現の全体的な比較

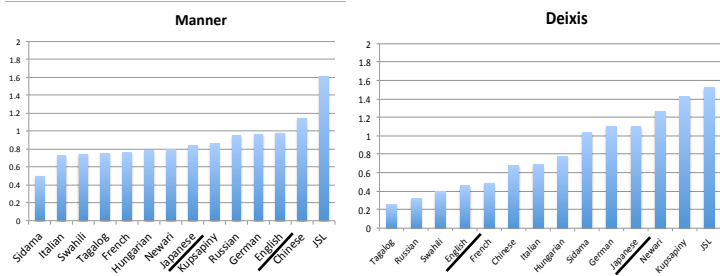
● 以下の3種類の様態・経路・直示の組み合わせからなる27のクリップを使用

様態：Walk, Run, Skip

経路：To, Into, Up

直示：Toward S, Away from S, Neutral (S=話し手)

● 様態と直示性の表現頻度 (1クリップごととの平均)



● 日英語の比較

● 友達が走って入って来た。

様態、経路、直示が共存し、3つを示しやすい。歩行の場合は低指定率

● My friend ran into the house toward me.

様態と直示が主動詞で競合。ほとんどの場合様態が勝ち、直示は示したいときのみ付加詞で表現

### 4. 実験C

● 経路の種類によって、どの要素で経路を表すかが異なるか  
● 通言語的に、特定の経路シーンが主動詞で表現されやすいか

調査対象

A) 方向：UP, DOWN

B-1) 起点着点：TO, FROM, INTO, OUT OF, TOWARD

B-2) 中間点：ACROSS, THRU, PAST, VIA(BETWEEN), VIA(UNDER), AROUND, ALONG

● 日本語の結果

UP: 女の人が 階段を 歩いて登って行った。

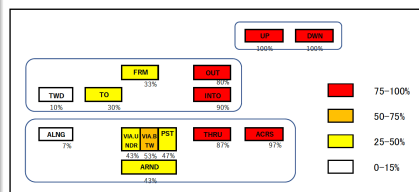
ACRS: 男の人が 道路を 走って渡って行った

ARND: 男の人が 木の周りを 歩いて一周した。

PST: 女の人が ポストの前を 歩いて行った

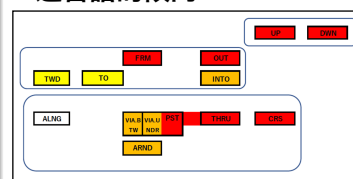
TWD: 男の人が テーブルに向かって 走って行った。

ALNG: 男の人が 川にそって 歩いて行った。

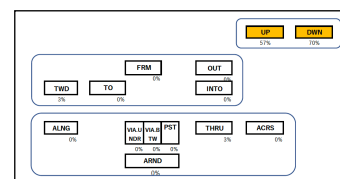


経路の主要部表現率  
テ形動詞も主要部複合体  
の一部と考える

● 通言語的傾向



フランス語



ロシア語

● 主動詞で表現されやすいもの：

● 方向性のUP, DOWN (垂直軸のもの)

● 境界越え (INTO, OUT, ACROSS, THRU)

### 5. 結語

● 日本語は次の特性を持つ。

● 直示性高頻度言語、様態限定頻度言語。

● 複数の動詞で動詞複合体を作ることが出来るので、様態、経路、直示性が動詞複合体内で共存する (共存型)。

● 経路はかなりの種類を主動詞複合体内で表現する (経路主要部表示型)。しかしすべての経路がそうではない。

● 経路表現位置の類型論は、経路スケール上のどの範囲をを主動詞で表すかという観点から再定義される

### 文献

- 古賀裕章. (2017) 「日英独露語の自立移動表現：対訳コーパスを用いた比較研究」  
松本曜 (編) 『移動表現の類型論』 くろしお出版
- Matsumoto, Y. (2018) Motion event descriptions in Japanese from typological perspectives. In T. Kageyama & P. Pardeshi (eds.), *Handbook of Japanese contrastive linguistics*, 273–289. Berlin: Mouton de Gruyter.
- Slobin, D. I. (2006) What makes manner of motion salient? In M. Hickmann & S. Robert (eds.), *Space in languages: Linguistic systems and cognitive categories*, 59–81. Amsterdam: John Benjamins.
- Talmy, L. (1991) Path to realization: A typology of event conflation. *Proceedings of the Seventeenth Annual Meeting of Berkeley Linguistics Society*, 480–519.